



センリゴマ	<i>Rehmannia japonica</i> (Thunb.) Makino ex T.Yamaz.	絶滅危惧 I 類
(環境省:絶滅危惧 I A類)		ゴマノハグサ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が危機的水準まで減少している。また、大部分の個体群がその再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	写真(岐阜県博物館) 標本 
形態の特徴	茎は直立し、高さ20-50cmになる多年草。根際の葉は有柄で卵状楕円形。茎とともに軟毛と腺毛がやや密に生える。花期は5月。葉腋から花柄を出し、その先に長さ5-6cmで鮮紅紫色の花を開く。	
生態的特徴	山野に生える。	
分布状況	県内では県南の中部で生育が確認された記録がある。	
減少要因	本種の分布域は県南の中部に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要のある場合は、生育場所を特定できることのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良